

松本清張からの挑戦状

「数の風景」とともに楽しむ南部町の風景

松本清張の作品「数の風景」の中に登場する「鳥取県西伯郡I町の三耀山霊仙寺」は、現在の南部町会見地区にあるお寺がモチーフになっていると思われまます。

11月の南部町読書まつりにあわせて、モチーフになったお寺を推理していただき、「霊仙寺を探せツアー」が行われます。町立図書館では、推理のヒントになる南部町の歴史資料

料や、清張の作品を揃えて展示をしています。また読書まつり当日は、北九州市立松本清張記念館より講師をお招きし「松本清張と図書館のなし」と題して講演会を行います。

くわしくは、今月の広報なんぶ13ページのお知らせ欄、または南部町観光協会のホームページをご覧ください。
<http://www.town.nambu.tottori.jp/kanko/>

松本清張でめぐる鳥取県

—鳥取県内の土地が登場する作品—

「数の風景」以外にも、作品にゆかりのある土地が県内にいくつか存在します。コーナー展示では、「ゆかりの地マップ」で作品を紹介しています。



作品の一部を紹介します



「半生の記」

清張の父、松本峰太郎は日野郡矢戸村（現・日南町矢戸）出身。父の思い出や、自身の生涯を語っている。



「数の風景」

山陰とウィーンとを想い飛び交う大胆な構図と緻密な計算が行き届いた長編。鳥取県内の主な舞台は西伯郡。

図書館利用状況

平成19年4月1日～平成20年3月31日利用分

蔵書冊数	57,513冊
※内19年度受入	3,100冊
貸出冊数	81,990冊
(前年・・・)	54,734冊
予約冊数	6,023冊
※内Web予約	301冊
利用人数	23,597人
(前年・・・)	20,258人

図書館はいま・・・

平成19年度年間報告

昨年10月から新システムが導入され、図書館のホームページから資料の検索ができるようになり、Web予約の受付もできるようになりました。また鳥取県の横断検索にも加入したことにより、鳥取県内の公共図書館の蔵書が簡単に検索できるようになりました。

また、南部町読書まつりの一環として行った「読書マラソン」が、図書館に足を運ぶきっかけづくりとして、大きな役割を果たしたのではないかと感じています。

平成19年度に人気があった本

【ベスト貸出】

「ホームレス中学生」 田村 裕
「居眠り磐音江戸双紙シリーズ」 佐伯 泰英

【ベスト予約】

「女性の品格」 坂東眞理子
「私の男」 桜庭 一樹

各メディアで取り上げられたり、ドラマ化の影響で人気に火がついた作品もありました。また、桜庭一樹氏は鳥取県出身ということもあって、みなさんの関心も高かったようです。



夢をかなえるゾウ
水野 敬也



食堂かたつむり
小川 糸

この2冊は、今現在、町立図書館で貸出・予約が多い本です。年間通しての人気はどうなるでしょうか？